須坂市立常盤中学校だより

碧　空

令和２年８月25日(火)

第５号

今年度の夏休みは、８月８日(土)～17日(月)の10日間というとても短い夏休みではありましたが、生徒達もほっと一息つくことができたことと思います。おかげさまで、夏休み中も大きな事故等もなく無事終えることができ、大変有り難く思っております。

18日(火)には２学期始業式を行い、12月まで続く長い２学期のスタートをきることができました。８月もあとわずかで終わりですが、毎日暑い日が続いています。これからも、新型コロナウイルス感染拡大防止対策とともに、熱中症の予防対策をしなくてはならない日々が続いていきます。生徒の 健康や安全を第一に考え、実り多き２学期となるようにしていきたいと思います。引き続き、皆様方のご理解・ご協力、そしてご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

２学期始業式での校長講話

「無名の人」「人を支える」

今日から２学期が始まります。

１学期の終業式では、中学校では一生の財産となる学力や人間性をつけていくことや「稚心を去る」ことの大切さについてお話ししました。自分が一人の人間として、どのように生きていけばよいかを考えることは、生きていく上で大切なことです。そこで今日は、司馬遼太郎さんという人が書いた「無名の人」という短い小説の中に出てくるお話をします。

時代は幕末、江戸時代から明治時代に変わろうとしていた時代のことです。

長州藩、今の山口県に井上馨（かおる）という人がいました。政治家であり、実業家であり、やがて明治政府の外務大臣になって、近代日本の礎を作った人の一人です。若い頃、彼は井上聞多（もんた）といい、尊皇攘夷（そんのうじょうい）運動に加わっていました。黒船来航以来、日本に開国を迫ってきた諸外国に対し、天皇を中心にして外国の勢力を追い払おうとする考え方です。そのため、聞多は26歳の時、仲間と一緒に、江戸にあるイギリス公使館という建物を焼き討ちする事件に参加します。

しかし、彼は次の年、後に総理大臣になる伊藤博文たちとイギリスへ、だまって密航します。そして、あまりの国の力の違いに驚いて、大きく考え方を変えていきます。外国を排除するのではなく、開国して、諸外国から学ぶ方が先だと考えたのです。日本に帰った彼らはその考えを広めようと動きます。

でもその時、事件が起きました。聞多は、まだ攘夷（外国を打ち払うこと）を叫んでいたある人達に襲われ、体中に何十ヵ所もの刀傷を受けるという瀕死の重傷を負ってしまったのです。ここが今日の話の場面です。

結論から言うと、この時、偶然に居合わせた２６歳の若いお医者さんに命を助けられたのです。所郁太郎という若者です。その時の様子を、司馬さんは素晴らしい文章で再現してくれていますので、読んでみます。

『「聞多、聞こえるか。」

と、郁太郎は、この友人の耳元に口を付けて叫んだ。励ますためであった。

「私は所郁太郎である。君は苦しいであろう。この苦痛から逃れるために死を選ぼうというのは、

安易である。分かるか、君を抱きしめておられるのは、君の母上だ。母上が君に生きよ、とおおせられているのだ。君は生きねばならぬ。私は君を生かすために手術をする。手術は苦痛を伴うが、君は生きるために耐えねばならぬ。満身の気力を奮い起こして手術の苦痛に耐えるのだ。よいか。」

聞多の顔に深い感動の色が現れたというから、聞こえたのだろう。が、郁太郎は手術道具を持っていない。たまたまこの屋敷に数日前から畳屋が入っていたので、畳針がある。それを使った。むろん、麻酔などは実用化されていない時代であり、そのままで傷口を縫うのである。郁太郎は刀の下げ緒でたすきをかけ、縫うことにとりかかった。聞多が案外痛みを訴えなかったのは、既に知覚を失い始めていたためかもしれなかった。郁太郎は危険を感じた。やがて右のほおから唇にかけての傷を縫い始めた時、激しく痛みを訴えた。

「生きる力があればこそ痛むのだ。」と郁太郎は聞多を励ます一方、自分でもこれは助かるかもしれぬと思い、喜んだ。手術は午後１０時頃から始まって午前２時におよび、５０針を縫ってようやく終わった。この間、二人の医者が助手として働き、さらに患者が体を動かさぬよう、母親と兄の五郎三郎が、４時間の間、ずっと体を押さえ続けていた。』

聞多はこの手術によって奇跡的に命を取り留め、やがて井上馨として歴史の表舞台に登場してきます。しかし、人間の運命は分かりません。助けた方の郁太郎は手術から６年後、チフスという病気にかかり、無名のまま歴史から消えていきます。歴史の本にはどこにも登場しない所郁太郎。友の命を救い、歴史の舞台に登場させながら、自分自身は誰にも知られずに亡くなってしまいました。

歴史は一部の有名な人たちによって作られたのではなく、むしろ所郁太郎のような無名の人たちによって作られてきたのでしょう。そして、私たちもその中の一人なのです。

人は、その時その時を一生懸命ひたむきに生きていくことによって、必ず、誰かを支えています。そして人は、目に見える人にも、目に見えない人にも、数え切れない人によって支えられています。

だから毎日、自分の役割を果たし、お互いを思いやり、支え合って生きていくことの大切さや喜びが実感できるような、中学校生活を送ってほしいと思います。そして同時に、将来、自分の好きなことや得意なことで、多くの人を支えていくことができるように、一生の財産となる学力や人間性を高めていってほしいと、心から願っています。

お知らせ

〇常盤祭一般公開中止について

今年度の常盤祭は、９月 25 日（金）、26 日（土）に、また体育祭を 29 日（火）に予定しております。例年ですと、保護者、ご来賓、地域の皆様にもご来校をいただき、生徒の発表の様子をご覧いただいておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、誠に残念ではありますが、一般の皆様への公開を中止とし、生徒と職員のみで実施する予定です。ご理解をいただきますよう、よろしくお願いいたします。当日の生徒の様子につきましては、学校だより、学年だより等でお知らせいたします。

〇壁掛け式扇風機が設置されました

「学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る補助金」を活用して、各教室に壁掛け式の扇風機を 2 台ずつ設置いたしました。昨年度設置していただいたエアコンの涼しい風が、より有効に教室内を循環するようになりました。新型コロナウイルス感染症予防と共に、熱中症予防に役立っております。今後、補助金を活用し、さらに各教室に網戸を設置する予定です。